

第2号

2022年9月20日

みんなの未来きこう



発行: 全員参加による地域未来創造機構 発行責任: 半澤彰浩



写真は、横浜エリア「市民基礎講座」フィールドワーク「リトルファームHOMMOKUもくり」にて。

お知らせ

2022年

11月27日(日)

かながわ県民センター
1Fホール

14:00~16:30

◎横浜市神奈川区

鶴屋町2-24-2

地域で「居場所」やサロン、「こども食堂」などを行う市民活動団体、アソシエーション、ワーカーズ・コレクティブで活動する皆さん

みんな👏、集まれ!アソシエーションが主役だ!!
~地域活動を豊かにするアソシエーション交流会~

大ぜいの方たちとコミュニケーションが取れるワールドカフェ形式で行います。日ごろの活動で感じていることや組織運営の悩みなどなど、情報交換、交流しませんか?

申込みは下記未来機構事務局へ。お待ちしております!お気軽にどうぞ!



未来機構
広報紙
名称決定!

広報紙の名称募集に対して17件の応募があり、検討の結果、「みんなの未来きこう」に決定しました。ご応募いただいた皆さん、ありがとうございました。

全員参加による
地域未来創造機構
(略称: 未来機構)

〒222-0033横浜市港北区新横浜2-8-4 オルタナティブ生活館3F
Tel:045-534-7131 fax:045-534-7151 e-mail:minnano@miraikikou.org

<https://www.minnanomiraikikou.org/>

横浜エリア市民基礎講座開催しました！

8月4日から9月5日にかけて、未来機構初となる市民基礎講座が横浜市で開催され、16人が受講した。同講座は全4回の連続講座で、講座を通じて受講者や講師とのコミュニケーションを楽しみながら、地域を豊かにする活動への共感を高め、第一歩を踏み出すヒントを得る目的で開催された。

野口鉄平(公益社団法人神奈川県地方自治研究センター研究員・未来機構講座企画運営委員)

「誰か」ではなく「私」の問題として

8月4日に開かれた1回目冒頭の受講者の自己紹介では、「地域の居場所を作りたい」「活動のヒントを得たい」など、さまざまな受講動機が聞かれた。

講義では、さまざまな社会問題と私たちの生活が関わっており、子どもの貧困やヤングケアラー、地域のつながりなど、身近にある問題を「誰か」の問題でなく、「私」の問題として捉え、新しいつながりを作っていく重要性が指摘された。

本講座の強みは・・・

こうした身近な問題に取り組む市民団体の当事者から活動や運営の実際を聞き、現場を見て学びながら、自らの考えを深め、それを形にしていくヒントが得られるのが本講座の強みだ。①異年齢の子どもの関わりに価値を置いた学習支援に取り組む「アソシエーションてらこやこどもごはん」、②空き家を活用して地域の活動拠点と農園を運営する「リトルファームHOMMOKUもくり」、③さまざまな事業を創出し地域の育児力を育む「ワーカーズ・コレクティブ キャンディ」という魅力的な事例について、各主宰者が活動のきっかけ、活動に至るまでの経過、活動の実際などを報告し、受講者との間で活発な質疑応答が行われた。

3回目には「リトルファームHOMMOKUもくり」を実際に訪れ、現地でしか分からないことも学んだ。



思いを形にするために

2回目と4回目にはグループワークを通じて学びを振り返った。グループに分かれて気づきや思いを出し合って模造紙にまとめて発表し、全体で共有した。4回目の終了後には、思いを形にしていけるよう、希望者を対象に、地域活動の経験豊富な相談員による個別相談も行われた。

「社会」と「地域」の中で「私」にできること

地方自治の研究者である私にとっては、今回の講座を通じて、一市民としての思いが活動やネットワークへとつながっていく市民自治のプロセスを学ぶ貴重な機会となった。本講座の意義は、身近な問題に対して「何かできないか」という各受講者の思いを共有した上で、「社会」と「地域」と「私」の関係性を確認し、講座参加者と対話しながら市民活動の実践からヒントを得ることを通じて、自分ごととして何ができるか、自らの思いをより具体化させていくことができる点にある。また、講座を通じた出会いやつながりは、1+1ではなく、2×2という形で地域を豊かにする力となるに違いない。本講座を通じて、多くの市民が地域の「誰か」とつながり、地域がより豊かになっていくことを願ってやまない。



「リトルファームHOMMOKUもくり」にて



手作り赤しそジュース

「リトルファームHOMMOKUもくり」を訪問しました

※アソシエーション：共通の目的や関心をもつ人々が、自発的につくる集団や組織。



猛暑の8月2日、横浜市の中心部に近い中区本牧地区の住宅街を歩いていくと小さな看板が出ていました。細い脇道を抜けると目の前に色とりどりの花やハーブ、野菜畑の緑・緑・緑の風景が広がります。住宅街の中なのに、レトロな赤い屋根の建物と相まって、懐かしいようなほっとする不思議な感覚にとられる場所でした。

「リトルファームHOMMOKUもくり」運営委員会代表の今関喜代子さんにお話を聞きました。
(大池玲奈)



◆空き家提供を受けて

2016年末に「WEショップ」が加盟する商店会の会長さんから「空き家になっている実家を地域のために使ってほしい」と相談されたことが発端です。畑をやってみたいというメンバーがいたので、みんなで草ぼうぼうだった庭を掘り返し、石を除き、畑に整備。2017年はきゅうり、ミニトマト、ナスなどが大豊作。順調に野菜が育ったことに気を良くして本格的に活動の検討を始めました。

商店会やボランティアの有志を中心に運営委員会を立ち上げ、空き家活用を区役所に相談。空き家対策NPOを紹介され、学習会なども実施。商店会の工務店や畳店などの協力を得て耐震補強し床を張替え、みんなで古い玄関戸や窓枠、柱、天井等をピカピカに磨き、壁を塗り、見違えるようになりました。家財道具などの寄付もあり、大ぜいの協力を得て2018年10月にオープンしました。

◆もくりの活動

利用料200円で何時間でもいられる、というのが基本です。あとは場所貸しや自主企画の習い事(手芸と書道)。忍者教室をやったこともあります。自分の持っているスキルをワンコイン程度の受講料で提供してくれる方に講師をお願いしています。コロナ禍前は畑で採れた野菜を使いみんなでご飯をつくって食べる活動をやっていましたが、現在はお休み中。商店会にあるコミュニティカフェの協力で、「もくり」の庭で採れた夏みかんのマーマレードや野菜で資金集めをしています。2020年はみんなでマスクも作りました。

◆みんなで一緒につくる居場所

空き家の提供から始まった居場所なので、いろんな人にこの場所を好きに使ってほしいと思っています。どんどん新しい人が入って、やりたいことをやってほしい。

現在運営委員は10人ですが、世代交代も進んでいます。今後の組織づくりをどうするかを思案中です。



懐かしいおばあちゃんの家に戻ってきたような雰囲気のある室内。クーラーはないが、緑の庭を通ってきた風が吹き抜ける。



枝豆や珍しい種類のインゲン、ピーマン、ミニトマトなどが育つ畑。手作りのピザ窯もある。



「もくり」をよく利用する子どもたちが提案し、近くの小学校2年生のクラスが野菜づくりの勉強に来たこともあるそうです。当日は「その子たちがドヤ顔で先頭を歩いてきたのよ(笑)」という今関さんの言葉は、「もくり」がああ地域に根付いていることが感じられて印象的でした。「居場所はここだけじゃなくていい。地域にたくさんあることが大事」とおっしゃっていました。



川崎エリア市民基礎講座開催します!

市民基礎講座

受講料:3000円(4回連続講座)

会場:川崎市生活文化会館「てくのかわさき」
(JR南武線「武蔵溝ノ口駅」北口、東急田園都市線「溝の口駅」より徒歩5分)

★あなたのスタートから実践まで伴走します。★						
		区分	テーマ	講師・進行等	ポイント・ねらい	
1 日 目	10月4日 (火) 10:00～ 12:00	5分		オリエンテーション	未来機構	本講座の主旨を理解する。
		20分		自己紹介	講座企画運営委員会	受講動機や講座への期待など
		45分	講義	私たちの生活を取り巻く社会の現状と近未来	篠崎みさ子(生活クラブ生協理事)	現在そして近未来に予測される地域の課題について考える。
		50分	事例共有	居場所やサロン、たすけあい活動の実際	佐藤由加里氏(こども食堂「菜の花ダイニング」代表、かわさきこども食堂ネットワーク 代表)	さまざまな参加の入り口があり、人と人のつながりが「楽しそう」と思える場があることを知る。
		フィードバックシート ※アンケート集約				
2 日 目	10月11日 (火) 10:00～ 12:00	60分	講義 意見交換	市民参加によるおたがいさまのたすけあいを地域に拡げる	上田祐子氏(NPO法人W.Co協会理事長・W.Coキャンディ)	進行する人口減少・超少子高齢社会、市民の活動の意味は?何をめざすのか?
		60分	グループワーク	地域・生活にある「自分ごと」についてのプレーストリーミング	ファシリテーター 岡田百合子氏(W.Co協会)	自らの考えや問題意識を整理する。超・少子高齢社会の当事者であることを意識する。
		フィードバックシート				
3 日 目	10月18日 (火) 10:00～ 12:00	120分	フィールドワーク	居場所やサロンの立ち上げと運営	石田和之氏(一般社団法人働きあわせプロジェクト代表理事)	参加を広げる手段、資金や運営に関わる工夫など。
フィードバックシート						
4 日 目	10月25日 (火) 10:00～ 12:00 ※個別相談除く	90分	グループワーク	講座の振り返りと今後の活動について	ファシリテーター 岡田百合子氏(W.Co協会)	グループでの自由討議から自分自身の今後の活動について考えてみる。
		30分	修了式		講座企画運営委員会	
		60分	個別相談会	※希望者のみ		

リーダー講座

会場:川崎市生活文化会館「てくのかわさき」
受講料:5000円(5回連続講座)

	日程	時間	区分	テーマ	講師・進行等	ポイント・ねらい
1 日 目	11月1日 (火) 10:00～ 14:30	5分		オリエンテーション	未来機構	本講座の主旨を理解する。
		25分		自己紹介	講座企画運営委員会	アイスブレイク、受講動機や活動アピール等
		90分	講義 意見交換	地域の課題を解決するための市民活動の意義と実践	木村満里子氏(W.Co連合会理事長)	格差・貧困、孤立等々、地域の課題を個別多様なアプローチで解決していくとするとときに主体となるのは誰なのか?
		60分	休憩			
		90分	講義 意見交換	介護、子育て、困窮者支援等、制度・政策と私たちの暮らし	中島圭子氏(参加型システム研究所客員研究員)	法律や制度が生活と密接につながっていることを実感できる。
2 日 目	11月7日 (月) 10:00～ 15:00	120分	講義	傾聴の基本	松尾隆義氏(NPO法人パートナーシップアンドリスニングアソシエーション代表)	傾聴とは何か?傾聴の理論と技法について学ぶ。
		60分	休憩			
		120分	講義/ロールプレイ	コミュニケーション力を高めるために	松尾隆義氏(NPO法人パートナーシップアンドリスニングアソシエーション代表)	相手との信頼関係を築くためには?「伝える力」と「受け取る力」を高めるために必要なことを学ぶ。
3 日 目	11月17日 (木) 10:00～ 15:00	120分	講義/実習	地域アセスメントの意味と手法	荻原満寿美氏(社会福祉法人いきいき福祉会)	地域の生活支援ニーズや地域資源の現状を捉え、課題解決へに向けたネットワークづくりの重要性を学ぶ。
		60分	休憩			
		120分	事例共有/ 意見交換	コミュニティ・ソーシャルワークの実際	樋口敬子氏(藤沢市社会福祉協議会地域福祉課長)	コミュニティ・ソーシャルワークとは何か?地域の人々と連携しながら、生きにくさを抱える人々を包摂しようとする活動への理解を深める。
4 日 目	11月21日 (月) 10:00～ 15:00	120分	事例共有/ 意見交換	地域の非営利市民事業・活動の意義と実際	上田祐子氏(W.Co協会理事長)	生きにくさを抱える人々を包摂しようとする活動の意義と実際について理解を深める。
		60分	休憩			
		120分	講義/グループワーク	参加型の組織運営力を高めるために	ファシリテーター 荻原妙子氏(かながわ生き生き市民基金)	理念や目標の共有、情報共有のノウハウ等、チームのリーダーに求められる役割や心構え、目的を実現するために重要なことは?
5 日 目	11月29日 (火) 10:00～ 12:00	120分	フィールドワーク	居場所やサロンの運営の実際	NPO法人、アソシエーション等	立ち上げの動機や合意のとり方、地域(自治会・町内会等)との関係、広報、ボランティアの関わり、資金調達の手続きなど。
レポート						

12月1日～12月20日「市民基礎講座」、1月11日～2月2日「リーダー講座」は、さがみエリア(海老名市文化会館、ユニコムプラザさがみはら)で開催!
詳細の内容は、未来機構HP「講座・研修」のページへ!右記QRコードから確認・申込みできます。



発行:2022年9月20日
発行者:全員参加による地域未来創造機構(略称:未来機構)
〒222-0033横浜市港北区新横浜2-8-4 オルタナティブ生活館3F
Tel:045-534-7131 Fax:045-534-7151 E-mail:minnano@miraikikou.org